

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名 **建設局**

基本計画	柱	街を支える
	大項目	交通・物流基盤の機能強化とネットワーク化
	取組みの方針	市民生活や産業活動を支える道路・交通ネットワークの整備

担当局 / 総務担当課名	建設局	総務課
連絡先	582 - 2252	

21年度計画

-2-(2)-

施策名 **市民の交通利便性の向上と産業活動の支援**

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	主要な路線を選択と集中により効率的に整備することで、市民の交通利便性の向上や産業活動の支援を図ります。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	市民生活や産業活動を支える道路・交通ネットワークの整備

成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		計画	平成21年度	目標値	
	年度	平成21年度			年度	平成25年度
物流ネットワークの整備率	年度	平成21年度	実績	87 %	年度	平成25年度
港湾・空港へのアクセス・利便性向上のための道路整備の進捗状況を把握するため、物流ネットワークを形成する幹線道路の整備率(供用延長率)を指標に設定します。	現状値	87%	達成度	%	目標値	90%
	自動車専用道路出入口10分圏域の拡大	年度	平成21年度	計画		年度
都市高速道路など自動車専用道路出入口までのアクセス向上によるサービス水準を把握するため、自動車専用道路やアクセス道路の整備に伴う10分圏内の人口カバー率を指標に設定します。	現状値	88%	実績	88 %	目標値	95%
		年度		達成度	%	
		年度		計画		年度
		現状値		実績		目標値
				達成度	%	
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]		事業費	19,728,316 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
			うち一般財源	2,304,473 千円	219,375 千円	

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	A	ほぼ予定どおり道路整備は進んでおり、物流ネットワークの強化に貢献していると考えています。また整備に当たっては、質の確保にも十分配慮しながら、コストを縮減しています。
		<p>今後の局施策の方向性</p> <p>今後は、暫定供用や部分供用など早期に効果を発揮するよう戦略的に整備を進める必要があると考えます。</p>

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価
 下記のとおり

目標値の考え方を示すことが必要と考えます。

施策名 市民の交通利便性の向上と産業活動の支援

構成事業名	事業費		事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]				21年度			21年度
主要幹線道路の整備			19,728,316 千円	219,375 千円	裁量的経費			ウ
事業費のうち一般財源			2,304,473 千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
	19,728,316 千円	219,375 千円
施策全体の事業費のうち一般財源	2,304,473 千円	

局施策の
21年度評価

A

【局施策評価】
 A: 大変良い状況にある
 B: 概ね良い状況にある
 C: 概ね良い状況とまでは言えない
 D: 不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	建設局	道路計画課
連絡先	582-3888	

基本計画	柱	街を支える
	大項目	交通・物流基盤の機能強化とネットワーク化
	取組みの方針	市民生活や産業活動を支える道路・交通ネットワークの整備
	主要施策	市民の交通利便性の向上と産業活動の支援

関連計画	
事業期間	平成21年度～
経費区分	裁量的経費

-2-(2)-

事業名	主要幹線道路の整備	
-----	-----------	--

事業の概要	何(誰)をどのようになりたいのか。	「ひびきコンテナターミナル」や「北九州空港」など港湾・空港へのアクセス道路の整備を行い、物流ネットワークを重点的かつ速やかに形成することで、産業の振興や新たな企業の誘致を進め、アジアの玄関口である本市の国際競争力の強化を図ります。	
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	市民の交通利便性の向上と産業活動の支援
		成果	物流ネットワークの整備率 自動車専用道路出入口10分圏域の拡大

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度 ・9号線(熊谷工区)完成(暫定部分供用) ・穴生水巻線(穴生工区)完成(暫定)	平成22年度 ・戸畑大谷線(尾倉ラフ)完成(暫定) ・国道3号砂津拡幅完成(暫定)等	平成23年度	平成24年度 新若戸道路(期)完成	平成25年度	計画変更理由		
		現状	・9号線(熊谷工区)完成(暫定部分供用) ・穴生水巻線(穴生工区)完成(暫定)	・戸畑大谷線(尾倉ラフ)完成(暫定) ・国道3号砂津拡幅完成(暫定)等		新若戸道路(期)完成				
	実施状況	成果・活動指標(上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		主要幹線道路の単年度完成延長(4車線のうち2車線等暫定の完成を含む)						計画	2.0 Km	年度
		市内の渋滞対策やネットワーク強化のため、主要な幹線道路の整備を進めています。						実績	2.0 Km	内容
								達成度	100.0 %	年度
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月[21年度:執行額]						事業費	19,728,316 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度) 219,375 千円	
							うち一般財源	2,304,473 千円		
単年度計画	[図表: 単年度計画の推移]									

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 平成21年度は、暫定整備を目指していた道路整備を含め、ほぼ予定どおり工事の進捗が図られました。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	「ひびきコンテナターミナル」や「北九州空港」などの物流拠点を結ぶ道路は、産業の振興や新たな企業の誘致を進め、アジアの玄関口である本市の国際競争力の強化を図るためには必要不可欠な社会基盤であり、ネットワークの強化に対する有効性は非常に高いと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	道路整備に関して、工費縮減を図っており、今後も品質の確保にも十分配慮しながら更なるコスト縮減を図ります。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	道路整備については、長期に渡ることから、継続的に実施し、暫定供用や部分供用など早期に効果を発現させる戦略的な整備を図る必要があると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。	4	公共工事の実施主体は、国や地方自治体等により行われており、今後も市に係る部分は市により実施します。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	本事業は、施策に対する有効性が非常に高く、引き続き、主要な幹線道路の整備を推進していきます。